

第2回「魅力ある学校づくり」案に係る情報・意見交換会（実施報告）

1. 日 時 平成 27 年（2015 年）7 月 22 日（水）19 時 00 分～21 時 00 分
2. 会 場 庄内公民館 3 階・集会室
3. 参加者 魅力ある学校づくり連絡会 11 人
学校関係者：亀谷校長（第六中学校）、松岡校長（第十中学校）、矢野校長（庄内西小学校）、
宮崎校長（野田小学校）
市 職 員：半田部長（都市計画推進部）、田中センター長・金井センター長補佐・田井（南部
地域連携センター）、林次長（教育委員会事務局）玉富課長（生涯学習課）
計 20 人
4. 進 行 河合将生さん（office musubime）
5. 事務局 島野参事、長坂主幹、栗山主査、中辻、山本、大住コーディネーター
6. 当日の流れ

○19：00～ はじめに

<主催者挨拶>

- ・本日は、お足下の悪い中、第2回「魅力ある学校づくり」案に係る情報・意見交換会にご参加いただき、ありがとうございます。
- ・7月1日に開催しました第1回では、「魅力ある学校づくり」連絡のメンバー16人にご参加いただき、さまざまな情報・意見の“キャッチボール”を行いながら、活発なご議論をいただくことができました。本日、第2回におきましては、「小中一貫教育」についての情報を共有させていただきながら、理解を深めてまいりたいと思っております。
- ・本日も、皆さんとさまざまな意見を交換しながら、南部地区の子どもたちのためにより良い学校について考えてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

<河合さん挨拶>

- ・本日、初めてお会いする方もいますので、改めて簡単に自己紹介します。昨年度「魅力ある学校づくり」ワークショップでも進行をさせていただいておりました office musubime 河合将生です。普段は、NPO やボランティア活動の“家庭教師”をしておりまして、今日も宝塚市「助成金申請」についての講座をしてきました。また、大学でボランティア論などを教えたり、東北地方で東日本大震災の復興支援の活動をしたりしています。
- ・本日は、参加者同士の自己紹介、第1回の振り返り、「小中一貫教育」の説明、「小・中学校の合同研修」の取り組み報告、意見交換という流れで進めさせていただきたいと考えております。第1回の意見交換でも「小中一貫教育」について、さまざまな質疑をいただいたように、「小中一貫教育」については、皆さんそれぞれ違ったイメージをお持ちになっていますので、「小中一貫教育」が一体どのような教育なのか、事務局からご説明いただき、情報を共有させていただきたいと思ひます。意見交換の主役は、本日、ご参加いただひている皆さんですので、不安や疑問に思ひることなどは、ご遠慮なさらずに、自由にご発言いただければと思ひます。

○19:05～ 参加者同士の自己紹介（アイスブレイク）

今回、異なる校区の方同士で話し合いができるよう、グループ分けをさせていただきました。

自己紹介を兼ねて、「小・中学校の思い出」、「小・中学校で印象に残っている先生」について、グループ内で語っていただきました。



○19:30～ 第1回の振り返り（事務局・長坂より報告）

7月1日に開催しました第1回の情報・意見交換会では、事務局の考え方として、①小・中学校を統廃合することではなく、全く新しい学校を作っていくため、学校を“再編”すること、②義務教育9年間を見とおした連続性のある小中一貫教育を推進すること、③学校に放課後の学習スペースや、地域の人たちと交流できるようなスペースを設備して、子どもたちにとって居心地の良い場づくりを進めること、④（仮称）南部コラボセンターと学校が緊密な連携を図ることで、子どもたちの学びをサポートできる学校づくりを進めることなどを説明しました。



それに対する質疑として、「学校を再編したら、子ども一人あたりの職員数は増えてくるのか。」「すべての小学校と中学校を同一校舎にすることやすべての学校を建て替えることは考えられるのか。」という意見をいただき、「教職員の定数は、国の法律によって定められているが、市の財源で独自に常勤の教員を雇える制度など色々な制度を活用し、適正な人的配置をしていきたい。」「平成32年の時点での小・中学校の児童・生徒数は、2,400人程度と予想されるので、そのような大規模な学校を適正に運営できるのかという問題がある。また、今後、1校あたりの児童・生徒数は減少の一途を辿ると予想されているので、すべての学校を建て替えることは難しい。」とお答えした。小中一貫教育については、「分割校を解消してから、小中一貫教育を進めていくべきではないか。ぬるま湯に浸かった状態で育つことになるのではないか。そもそも本当に小中一貫教育はできるのか。」などといったご質問をいただき、その目的や狙いによってさまざまな形態や方法がある旨を説明しました。

他にも参加者同士の意見交換では、「地域のボランティアだけに頼るのは限界があるので、ボランティア活動を有償化する必要があるのではないか。」「小学生、特に低学年の子どもたちが歩いて通える距離に学校を配置する必要がある。」などといったご意見が出ました。

第2回では、第1回でいただいたさまざまなご意見の中で、あまり知られていない「小中一貫教育」について、我々が持っている情報を説明させていただき、そのうえで、「魅力ある学校づくり」の検討を進めてまいりたいと思っています。

○19:35～ “小中一貫教育って何だろう？”（事務局・島野からの報告）

●別紙資料のとおり

<主な内容>

- ・小中一貫教育の定義はいろいろあるが、「小学校と中学校が力を合わせ、9年間を見とおして子どもの教育を発展的により充実したものへ高める」として一緒に考えていきたい。
- ・小中一貫教育には、施設一体型、施設併用型、施設分離型といった施設形態や、従前の小学校6年間、中学校3年間（6・3制）を維持したまま、指導の区切りを柔軟に変更するなど多彩な方法がある。
- ・小中一貫教育にみられる成果として、学習意欲や学習習慣の定着や授業の理解度向上などの学習指導上の効果や、「中1ギャップ」の緩和（不登校やいじめ・暴力行為等の減少、進学に不安に覚える生徒の減少）やコミュニケーション能力の向上など生徒指導上の効果がある。
- ・小中一貫教育の課題として、小・中学校の時間割調整や合同事業の内容設定、児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮、小学校高学年のリーダー制や主体性の育成、教職員の負担感・多忙感が大きくなることがある。

<主な質疑及び意見>

【質問】 南部地域の小・中学校の再編や、小中一貫教育を行うことは決まっているのか。

【回答】 第1回で、事務局の考え方を示させていただいたが、これまでの学校を再編して、新しい学校をつくっていく。その学校では、義務教育9年間を見とおして、系統的、連続的な教育を効果的に行う方法として、小中一貫教育を推進したいと考えている。どのような方法や形態になるのか現時点では分からないが、考え方として、9年間、連続して子どもたちを育てていくことによって、学力や生活力をつけてもらいたい。



【質問】 南部地域のみ小中一貫教育を推進するのか。全市的にはどうなのか。

【回答】 南部地域においては、学習課題や生活課題を抱えている児童・生徒が多くいることから、子どもたちが夢や希望をもてるように「魅力ある学校づくり」が喫緊の課題になっており、課題解消に向けては、9年間を見とおした小中一貫教育が効果的であると考えている。今、南部地域は、学校再編を契機に小中一貫教育の最先端になろうとしているが、将来的には、全市的に広がっていくだろうと予想される。

【質問】 資料の3「全国の小中一貫校」に、実施件数が1,130件（小学校2,284校、中学校1,140校）と記載されているが、実施件数が1,130件で、中学校が1,140校ということはどういうことか。

【回答】 小学校1校に対して複数の中学校と一貫校になっている事例もあり、中学校が1校とは限らないということだと思うが、詳しい実態については、調べさせていただく。※他府県では、小・中学校から中学校へ複数中学校と複数小学校で小中一貫教育のブロックを形成しているところがあるので、件数よりも中学校数が多くなっているものと思われる。

【質問】小中一貫教育を推進すれば、国から補助金が出るのか。

【回答】そのような制度はない。ただし、小学校と中学校が併設される場合、増設や改築の方法によっては、施設整備の補助率の高い方を利用できる可能性はある。

【質問】小中一貫教育ではなく、中高一貫教育を取り入れることは考えられないのか。

【回答】中高一貫教育は、小中一貫教育より先行して、制度化されているが、豊中市教育委員会は、小・中学校しか管轄していない。南部地域に高校を誘致してはどうかという意見もいただいているが、南部地域に1校だけ高校をつくったとしても、教職員の転勤先がないなどの多くの問題があり、検討するに至っていない。

○20:05～ 庄内地域の小・中学校の合同研修の取り組み等について（学校からの報告）



亀谷校長（第六中学校）

○第六中学校区では小中連携会議を立ち上げ、小中学校で“目指す子ども像”を共有し、連携した取り組みを進めている。
○昨年の合同研修では、社会で生きていくために小中学校の間にどんな力をつけたらいいか？を考え、「自分をあきらめず人とつながり行動できる力」というスローガンを作成した。
○今年の合同研修では、小中学校がどういう取り組みを通して子どもたちに力をつけようとしているかを交流し合い、先生同士の連携を深め、取り組みを広げていきたい。

○本日たまたま第七中学校と本校で図書活動の交流を行った。異学年の交流は、双方に良い影響を与えている。

○第七中学校と庄内西小学校においては、地域の団体やPTA組織、そして消防団や地域行事等のつながりが、家庭・地域・学校が結びつくために大きな役割を果たしている。

○小学校の生徒指導体制は学級単位となりがちだが、中学校の要素を取り入れ、学校全体での問題の共有化を図っている。

○第七中学校と庄内西小学校でユニバーサルデザインの授業連携や、自由に行き来しやすい学校づくりを行っている。



矢野校長（庄内西小学校）

○小中一貫推進協議会で小中学校の先生の連携を図っている。

○昨年は「学力格差と経済格差の関係」に関する研修や授業研究等を実施した。今年は公立高校の入試制度と評価についての研修を実施する。

○小中学校の文化にはギャップがあるが、授業研究等を通し、子どもたちへの継続的な支援を考える機会となった。

○分割校である島田小学校は第七中学校とも連携する必要があり、大変である。



松岡校長（第十中学校）

- 小中学校の交流として、図書活動を通じた交流や、第十中学校のブラスバンドとの合同演奏を行っている。先日の南部フェスティバルではブラスバンドの合同行進を行った。
- 今年から野田小学校に、生徒指導専門の先生が配置されたため、第十中学校の生徒指導の先生と連携をとりながら、中学校の生徒指導体制や方法を学び、小学校の生徒指導に活かしていけたらよいと思っている。



○20:35～ 「庄内地域の実情に応じた小中一貫教育への期待及び不安とは？」（グループワーク）

「小中一貫教育」についての説明や「小・中学校の合同研修」等の学校からの報告を聞いて、質問・不安を赤い付せんに、感想・期待を黄色の付せんに、記入していただき、それについて、グループ内で共有しながら、模造紙に張っていただきました。



<グループで出た主な意見・質問>

	不安・疑問	感想・期待
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業(小学校)の重みが減る(感動が減る) ・体力に応じた運動会がむずかしい! ・学力を上げるための学校側の対策 ・小中一貫のカリキュラム。低学年での学習の遅れは挽回できる? ・学校側は、連携・連帯はすでに行っている部分もあるかと思うので、子ども達をどう取り込んでいくかが課題? ・具体的じゃないから分かりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫が必要だと思う様になった ・小中一貫校は今までそのメリットが分からず反対でしたが、その成果を知り、小中一貫校への考え方が変わりました ・学力の向上につながる ・英語力UPに期待。小⇒中 ・どうせ…と行ってしまっている生徒が多い ・一つのテーマで指導する事が大事な気がします ・学力向上について、中学校の小学校化を期待する ・異学年交流は有効 ・クラス替えができる ・学校という場の力を生かした教育 ・学ぶことは生活、生きること、楽しむこと ・学校は生活の大きなウエイト
生活指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が中学生につられてタバコ・夜歩き ・非行の問題 ・意識の共有化は ・世代間のギャップは 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒れにくい学校づくりが必要。基盤 ・何事にもトライする気持ち ・与えられた環境を克服する力 ・子供の良いところをひきだす ・色々な子どもたちが、色々な個性を持った子どもたちに出会う事が出来る良い意味・悪い意味でも、世界が広がるのでは?! ・問題の共有が出来て良い ・生活指導について、小学校の中学校化を期待する
教職員体制面	<ul style="list-style-type: none"> ・先生がたいへんそう(人数UP) ・先生方の人数と質も気になる所。 ・教職員の負担軽減はどのようにして? ・教員の意識は? ・小学免許・中学免許が必要。先生のQualityの高さ。優秀な教員を確保できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の質に期待します。本日初めに印象に残っている先生を考えた際、熱心な先生は厳しくても子どもは大好きになるしついていくと思います。我が子が通っている学校に、子どもたちから「手を抜いている…先生」をききます。学校検討の別に、「先生の質」を上げてほしいと思います。もちろんたくさんすばらしい先生はいます。 ・現場の大変さを感じるとともに小学校・中学校の先生方が行ききし始めたのが最近のことだと知り、少しおどろきです。 ・熱意のある先生たちを集めて気合いの入った学校にしてほしい!
施設形態	<ul style="list-style-type: none"> ・吹田市の一貫校はどのようなタイプか? ・一貫校になったら給食はどうなりますか? ・施設一体型が良さそうに思えますが… ・小中一貫校(施設一体型)がほんまにたつの? ・せまい校舎で子どもたちがきゅうくつな思いをしないかどうか…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい校舎ができて、周辺の景観も向上するといいですね。 ・きれいな設備で新しい取り組みをたくさんする。モデル校になってほしい。みんなが引っ越したくなるような。
通学路	<ul style="list-style-type: none"> ・広がる校区…学校へのアクセス 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団登校班長は中学生

	不安・疑問	感想・期待
地域連携・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力ある学校づくり」も大切と思うけど、地域による子どもの数の差も気になります。「子どもが住みやすい、住みたく地域作り」 ・今の地域活動と新しい学校とのマッチング ・学校と地域団体との関係は。新しい地域自治組織を作る計画もあるが。 ・子どもたちの学校生活の課題を解消する体制が整ってくるので、これに合わせて、家庭や地域の体制を整えていくが必要になる。 ・コラボとの協働は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化 ・教育と福祉の連携 ・庄内地域のオリジナリティー ・もちろん学校の取り組みも大切と思うけど、親・生活環境の向上というか、支え合いが大切だと思います。 ・中学校PTA（関係団体）の小学校PTA化を期待する。 ・子ども・親・父兄に対して先生方も〔孤独感を持たず〕連帯感・連携感を持って小中一貫に向かっていただきたい。
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・区割りをどうするかが大事 ・どれくらいの期間で実現するのでしょうか ・抜本的な改革できるか ・小学校の統合？中学校の統合？ ・どの学校とどの学校を、分割をなくして小中連携？ ・現在の小学校単位のコミュニティがどう継承されていくのか ・今後、豊中の小中学校はすべて小中一貫にしていく方向でしょうか。 ・学校再編で地域に格差・アンバランスさが生じないか？！また跡地の活用は？！ ・抜本的な改革できるか ・環境のせいにするズルい気持ち ・庄内っ子という特性がステレオタイプとなっていないか？ ・“幼・保”との連携は？ ・子どもの貧困の対策は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い切った改革を ・良いことづくめ！？なんでもっと早く始めなかったのかなあ… ・新たな枠組みへのわくわく感 ・豊中市の小中一貫教育の先駆けとなり、先進の役割を。南部より今後の拡がりにつながるよう期待と応援。 ・小・中にとどまらず高校が出来、高校も含め一貫教育！！ ・豊中市の他地域の学校にない特色を作ることに期待 ・枠組みを超えるから始まる展開への期待

※別紙「おしえて！島野先生」に、主なご意見・質問に対する回答を記載しております。

○21：00～ おわりに（閉会の挨拶）

- ・本日は、お忙しい中、「魅力ある学校づくり」案に係る情報・意見交換会にご参加をいただき、ありがとうございました。次回は、今回の振り返りを踏まえて、さらに「魅力ある学校づくり」について検討を深めてまいりたいと考えております。
- ・次回の第3回は、最終回になります。8月5日（水）19時～21時、庄内公民館・集会室にて開催を予定しておりますので、ご都合が合えば、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。